

京都市感染症週報

◆ 今週のコメント

- ・ デング熱の報告が2例(女性, 20歳代・男性, 30歳代)あります。推定感染地域は国外(モルディブマレ及びインド デリー)で、推定感染経路はいずれも蚊です。
本年では、初めての報告です。平成15年以降連続しており、最近では、平成20年5例、平成21年2例、平成22年4例の報告があります。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、2.21(86例)で、先週(1.79)に比べ増加しています。例年11月から12月にかけて流行のピークがみられますので、今後の動向にご注意ください。
- ・ 伝染性紅斑の定点当たり報告数は、0.33(13例)で、第25週(6月20日～26日)をピークに、減少傾向でしたが、前週(0.15)に比べ、増加しています。本年は、平成18年以降4年ぶりの流行年となっています。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は、0.15(6例)で、前週(0.21)に比べ、減少しています。しかし、この時期にしては、非常に多くなっています。

◆ 今週のトピックス:<腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が、1例(女性、20歳代)あります。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 32例】
- ・ 四類: デング熱 2例【1月以降の累積報告数 2例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点66、小児科定点39、眼科定点10、基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0. 00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2. 21	86
	② 手足口病	1. 10	43
	③ 流行性耳下腺炎	0. 41	16
	④ 伝染性紅斑	0. 33	13
	④ 突発性発しん	0. 33	13
眼科	流行性角結膜炎	0. 30	3

【次ページ以降の主な内容】

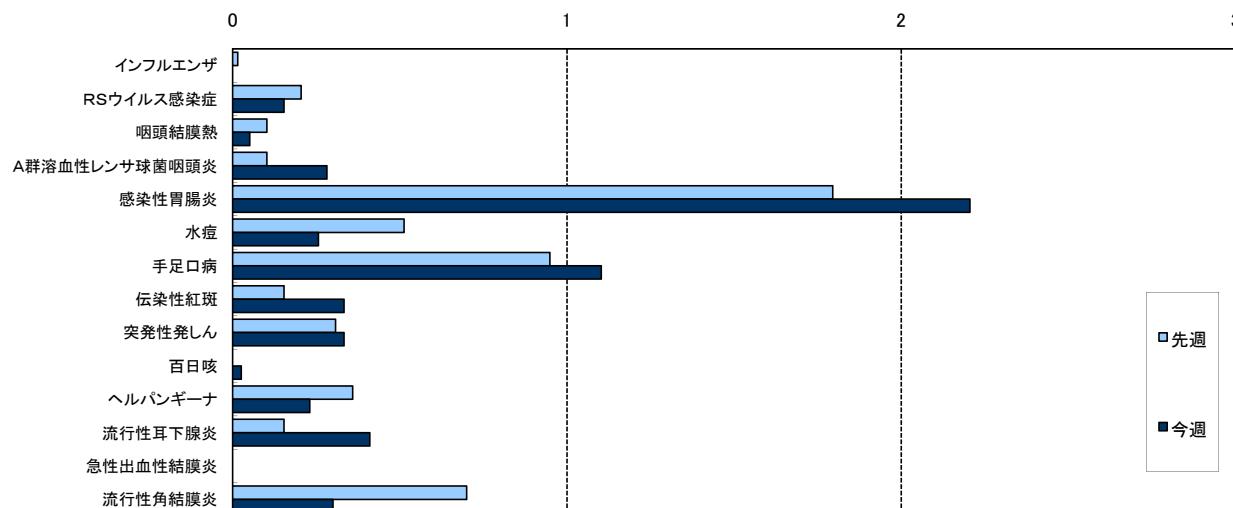
発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<腸管出血性大腸菌感染症>

(注) 京都市のデータは、平成23年10月6日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

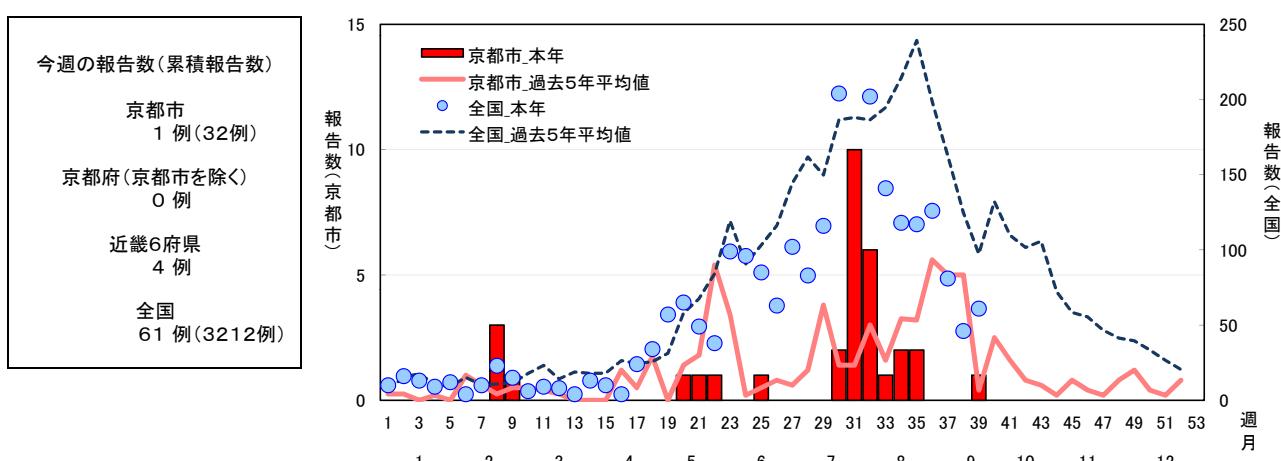
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第39週)と先週(第38週)の定点当たり報告数の比較

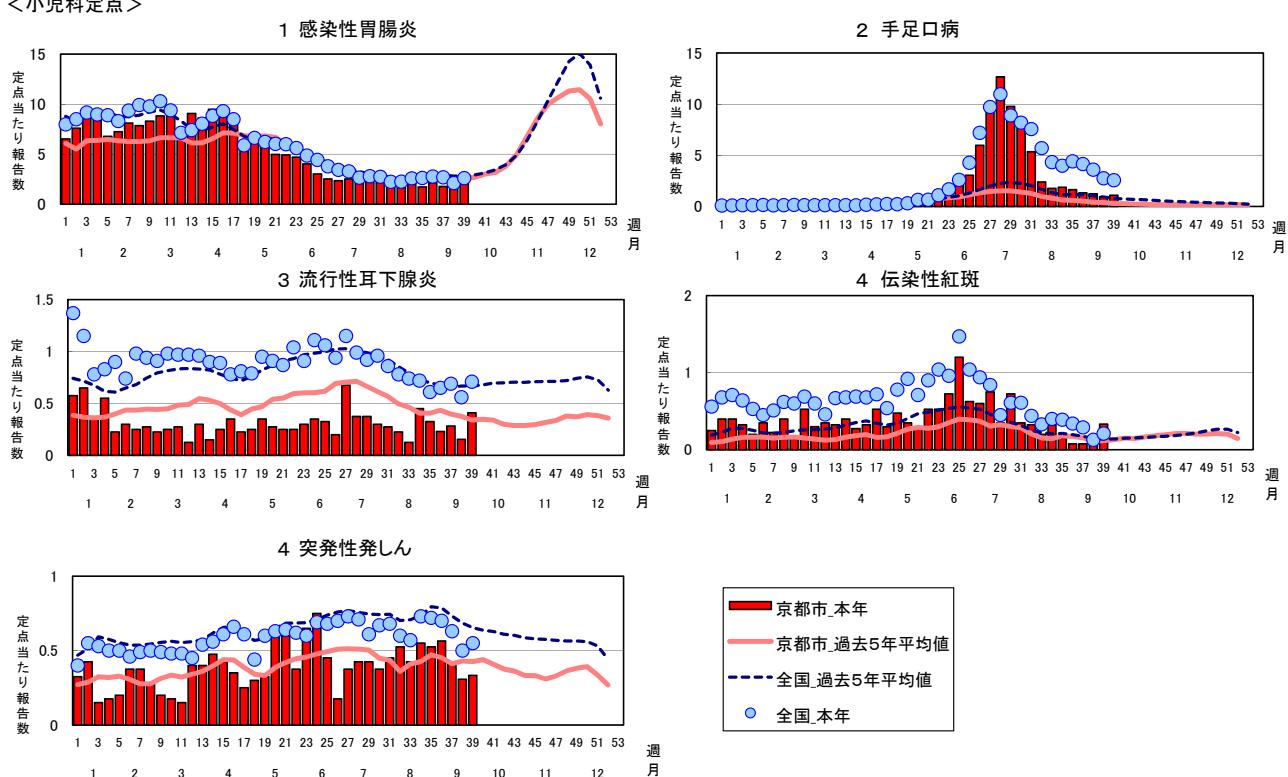


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移



3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



今週のトピックス：<腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が、1例(女性、20歳代)あります。血清型毒素型は、O157(VT2)です。推定感染経路は不詳ですが、推定感染地域は国内です。

本年の累積報告数は32例で、そのうち4組(12名)が家族内発生となっています。散発例の年齢階級別では、10歳未満(1例)、10歳代(4例)、20歳代(3例)、30歳代(2例)、40歳代(2例)、60歳代(3例)、70歳以上(5例)で、例年に比べ、70歳以上の割合が高くなっています。

血清型別ではO157(27例)、O86(1例)、O111(1例)、O145(1例)、型別不明(2例:HUS(溶血性尿毒症症候群)を発症)となっています。例年、本市、全国共にO157の報告が最も多く、次いでO26の順となっています。本年は、全国でO145の割合が増えています。

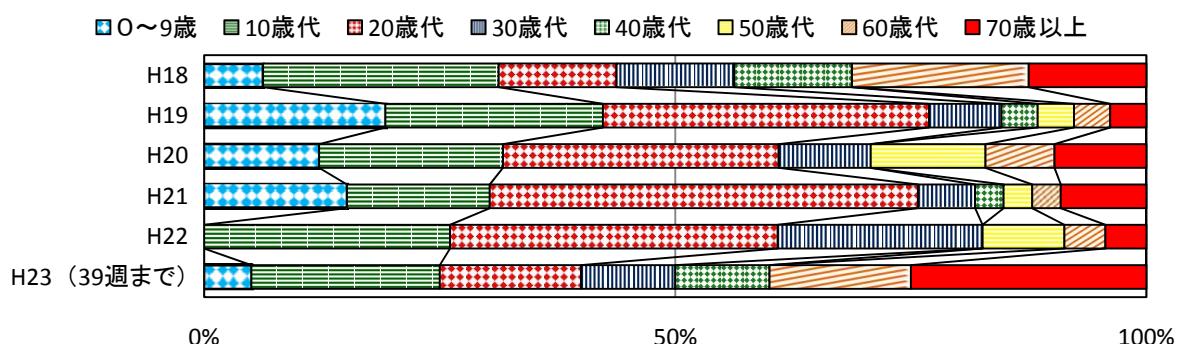
推定感染経路は、経口感染(18例)、経口及び接触感染(3例)、接触感染(4例)、その他(7例)で、経口感染のうち、肉類(焼肉、ユッケ、生レバー等)が6例となっています。

4月に発生した、食肉の生食による食中毒事件を受け、10月1日より、食品衛生法第1条第1項の規定に基づき、生食用食肉の規格基準及び表示基準が設定されましたので、以下のホームページを御参考下さい。

規格基準: http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/dl/110916_01.pdf

表示基準: <http://www.caa.go.jp/foods/pdf/syokuhin708.pdf>

本市における年齢階級別割合の推移(散発例のみ)



本市における診断年別 型別報告数

診断年	合計	O26	O86	O91	O103	O111	O121	O145	O157	その他
平成11年4月以降	26								25	O1が1例
平成12年	33	8							25	
平成13年	52	8				1			43	
平成14年	35					1			32	O165, O型別不明が各1例
平成15年	101	5							96	
平成16年	48	2					4		42	
平成17年	36	5			1				30	
平成18年	57	2					1		54	
平成19年	54	2				3			49	
平成20年	86	34			5	2		3	41	型別不明(HUS発症)が1例
平成21年	93	8			1		3	1	1	79
平成22年	34	1				1	2			30
平成23年第39週まで	32		1			1		1	27	型別不明(HUS発症)が2例

全国の血清型別推移(平成23年10月7日現在)

